

令和4年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間 **最終**)

\_\_\_\_\_ 函城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標	① 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 「社会で生きる力の基礎を身に付け未来社会を切り拓く児童」の育成に貢献する  <ビジョン>(将来の学校像) 幸福度No.1の学校 「学ぶなら、働くなら、通わせるなら、港町小で」と思える学校を目指す
----------	----------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区の「二川教育プラン」に則り、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いて取り組んできた。その結果、思考力・判断力・表現力については向上がみられたものの、基礎学力の定着には二極化がみられ、課題が残った。また、「自分で考え、自分から行動する」主体的な児童の育成により、自己肯定感を育む取組を行い、一定の成果が表れた。今年度も引き続き教育活動全般で主体性を育むことを基盤とし、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き、方策の工夫改善を重ねて取り組む。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	○知識・技能    ○思考力・判断力・表現力    ○主体性
-------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから **2**・**3** 年目)

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	自己評価					
						9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** ① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上		基礎・基本の徹底	・漢字のミニテストを定期的実施するなど、漢字の基礎を定着させる。 ・算数科において、全校で統一したノート指導を徹底し、自分の考えを図、式、言葉で表現できるようにする。	国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点	85%	85	100	A	86	101	A
		思考力・判断力・表現力の向上	・ペアトークやグループトークなどで、自分の考えを根拠を挙げて説明する活動を取り入れる。 ・振り返りの視点を提示するなどして、自分の学びを調整することができるようにする。	国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点	80%	80	100	A	81	101	A
** ① 自他を大切に して共に高まり合う児童の育成		自他のよさに気付き協働する児童の育成	・縦割り班活動を充実させることで、自信をもって行動し、思いやる態度を育てる。 ・学級で良いところを見つける「ほめほめ葉っぱ」などの活動を行い、友達の良いところに気付くことができるようにする。	「自分には良いところがあると思いますか。」児童アンケート	85%	90	105	A	87	102	A
		目標をもってやりぬく児童の育成	・委員会で生活目標を決めて、取り組む活動を行うことで、目標を自分たちのものにして取り組むことができるようにする。	「生活目標を守る。」 「進んで挨拶をする。」児童アンケート	80%	88	110	A	94	118	A
* ① 社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上		① 体力の向上	・外遊びの推奨と体育科の授業などの工夫を通して、「柔軟性」を高める。 ・「みなとまち体操」を創作し、年間を通して取り組み、楽しみながら苦手な運動の強化を図る。 ・規則正しい生活習慣を送って体力を向上させるために、学期に1回生活リズムばっちり週間を実施する。	4月から長座体前屈がプラス3cmの児童の割合	60%	51	85	B	66	110	A
		① 防災教育の充実	・呉市防災教育のための手引きを参考に、各学級年に1回防災に関する授業を実施する。 ・災害ごとの避難訓練における発達段階に応じた、事前事後指導を徹底する。 ・土砂災害携帯マニュアルのランドセル携帯の徹底を図る。	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時(大雨)に避難する場所や避難の仕方について理解している児童 児童アンケート	90%	88	97	B	92	102	A
業務改善	・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・業務を分掌部会で明確に分担することで、主任の業務を軽減するとともに、主任以外の校務運営参画を促進し、人材育成の機会としていく。 ・「目指す児童の姿につながるか」を規準に毎月の分掌部会で業務改善策を考え、企画委員会で審議し、実現に向けていく。	児童と向き合う時間を確保されていると感じている教職員の割合	75%	90	120	A	90	120	A
		長時間勤務の削減		在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	100%	70	70	C	78	78	C

【k: 評価】  
A: 100 ≤ (目標達成)    B: 80 ≤ (目標達成) < 100  
C: 60 ≤ (もう少し) < 80    D: (できていない) < 60